

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	情報社会論		
英文授業科目名	Information and Society		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	小林 宏一		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
小林	

【主題および達成目標】
<p>主題：今日、日常的に口にされている「情報社会」というコトバが生まれたのは、1960年代後半の日本で、その後、日本から世界に広まっていった社会観であったことはあまり知られていない。この社会観によって提唱された「様々なメディアの助けを借りた情報価値の増殖により、人間社会を<高次化>する」という目標は、「デジタル化時代」を迎えた今日、いままで以上の熱意と期待のもとで追求されつつあるといえよう。こうした認識を出発点として、本講義では、情報社会をもたらすとされる「情報化」過程とは、(いささか大げさに言えば)人類史のうちに、どのように位置づけられ、また、どのように評価されるべきなのか考えていく。</p> <p>達成目標：これまで「情報社会」関連の様々な事象に関心を抱き、将来、「情報社会」関連の様々な分野で活躍する可能性の強い電通大の学生諸君を念頭において、「情報社会」は、どこから来て、どこへ向かおうとしているのかを、歴史的視点を重視しつつ、また、直近の重要と思われる関連動向も取り上げながら論じ、学生諸君の「視野拡張」に貢献できたらと思っている。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
特にない

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
特にない

【教科書等】
教科書は定めない。参考文献は、講義の中で適宜指示する。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【授業内容とその進め方】

この集中講義（半期）は、以下の諸テーマを、順に論じていく。

- ・序論：情報社会論提唱の背景をさぐる
- ・情報社会と近代化—メディアなき〈アーミッシュ・コミュニティ〉をてがかりに
- ・社会史的視点から見た情報社会の展開(1):マスメディアの時代
- ・社会史的視点から見た情報社会の展開(2)：デジタル化過程の史的展開
- ・メディア・モーダルシフト化のただ中にある現在をどうとらえるか

講義は、ビデオ教材等を適宜織り込みながら講義形態で行う

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

講義の最終時間に行う教条試験の回答内容を主とし、講義中行うかも知れない小テストおよび講義への出席度を従として評価する。

【オフィスアワー：授業相談】

【学生へのメッセージ】

日頃、多様な社会事象に関心を持っている学生諸君の受講を期待する。

【その他】